

共同運営部門：薬剤管理センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 副病院長兼臨床研修センター長 兼血液内科主任部長	烏野 隆博
副センター長 薬剤部門長	深津 祥央

＜関連部署＞

部署名	部署名
薬剤部門	診療局
検査・栄養部門 臨床検査 総務課	看護局

＜特色と概要＞

2020年から、薬剤科の運営および薬剤師の業務に関する部局として立ち上がったが、今年度からは他部門と協調し、薬剤管理を含め、病院全体に薬剤部門としての機能を発揮するために活動している。

毎月開催する薬剤管理センター運営委員会で他部門における薬剤関連の課題を抽出し検討している。

＜実績＞

- ・1月から深津薬剤部門長が入職し、副センター長に任命された。
- ・患者サポートセンター運営委員会との共同で行っている抗凝固剤等、検査や手術遅延につながる薬剤の鑑別および循環器内科患者の入院に際する薬剤指導をDI業務として行う運用とした。
- ・モルヒネの紛失事故に対応して病棟転入出時におけるマニュアルを追加作成した。
- ・一時ICUにおいて薬剤師が常駐できなかったが人員配置を再考し8月から常駐することとした。
- ・各病棟・部門の定数在庫管理を専任の薬剤師で行うこととした。
- ・7階山側病棟の持参薬鑑別・承認において薬剤師による代行承認をしていたが、代行を中止し他病棟と同様に医師による承認に統一した。
- ・救急カートの新設・内容変更や配置状況については医療安全管理室が把握し、その後薬剤部門に連絡することで、薬剤部門と医療安全管理室と情報共有することとした。
- ・疑義照会に対して、①主治医へ連絡、②繋がらない場合は診療科部長等の診療科医師に連絡することとした。
- ・病院機能評価を受けて、①第三種向精神病薬の配置：病棟定数は廃止し、救急カート配置分は鍵付き金庫に入れて保管することとした。②併用禁忌薬がアラートのみで処

方できるシステムを廃止し、完全処方不可とする方向でシステムを変更することを調整していくこととした。

- ・ビーフリード輸液使用に関して、Bacillus cereus菌による菌血症を考慮し、①単剤での使用、②500mlあたり6時間以内の使用を周知した。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

1. 各部署の意見を吸い上げて、薬剤師として介入する専門業務を増やし病院全体的に利便性のある業務改革ができた。これには薬剤助手の人員導入も一助となっていることから、今後も有益性を考慮したうえで、数名の増員を考えたい。
2. フォーミュラー立ち上げを考慮していたが、まだ手を付けていない状態であり、時期を逸することなく進めていきたい。